



「みどり祭」の秋

部長 目崎 淳

秋は気候がよく、何をするにも適した季節ということから「〇〇の秋」とよく言われます。日本初の東京オリンピック・パラリンピックが開催された時期（今は「スポーツの日」になっています）であったり、野菜や果物、魚など旬の食べ物が店頭によく並んだりするのも、やはり秋です。他にも、芸術や読書、勉強など、さまざまな秋がすぐに思い浮かんできます。



そして、初等部には、忘れてはならないもう一つの秋があります。それは「みどり祭」の秋です。保護者の皆様のお手元に、みどり祭のお知らせが既に届いていることと思います。今年の初等部のみどり祭のテーマは

「みんなが育てた芸術の森

かがやく宝を探し出そう」です。

代表委員会の児童を中心に決定しました。先日、代表委員会の児童から、次のようなことが述べられていました。

このテーマにはとても素敵な意味が込められています。「みんなが育てた芸術の森」とは、みんなの作品のことを指しています。森にはいろんな木や花があるように、みどり祭にはみんなの個性豊かな作品がいっぱい集まります。一人ひとりが自分の作品を大切に育てることで、みんなで素敵な芸術の森を作り上げるといことです。そして「かがやく宝を探し出そう」とは、みんなの作品を見る人たちへのお願いです。みんなの作品には「宝物」が隠れていて、それはつくった人の思いやよさです。まだ誰も見つけていない宝物を探してみたいに、友達の作品のいいところを見つけたり、新しいことを学んだりすることが「宝探し」です。（右上に続きます）

作品を作る人も見る人も、みんなが楽しめるように考えました。みんなで力を合わせてすばらしい「芸術の森」をつくり、たくさんの「宝物」を見つけられる、素敵なみどり祭になるよう、みんなで楽しみましょう。

みどり祭は、文化的行事として位置付けています。文化的行事は「平素の学習活動の成果を発表し、その向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするような活動を行うこと。」（下線部分：文部科学省 小学校学習指導要領解説特別活動編）とあります。文化的行事のねらいは、児童が学校生活を楽しく豊かなものにするため、互いに努力を認めながら協力して、美しいものやよりよいものを創り出し、互いに発表し合うことによって、自他のよさを見付け合う喜びを感得するとともに、自己の成長をふり返り、自己のよさを伸ばそうとする意欲をもつことができるようにすることとしています。自分の作品はもちろんのこと、友達や上級生、下級生の作品を鑑賞することを通して、「この作品の〇〇なところが素晴らしい！」「この作品の〇〇は、自分が真似できないくらい丁寧に作られていて感動した！」などといった、まさに宝探しが行われることによって、充実した学習活動に結びついていきます。子どもたち一人ひとりの豊かな感性が展示作品の色や形、思いや願いのこもった文字や言葉となって、皆様の心に届くことを願っています。各学年の展示のほか、クラブ活動や礼法コーナーもあります。秋の休日、ご多用のところとは存じますが、是非ともご家族でいらしてください。お待ちしております。

